



<メディア情報>

2024年3月28日
宇宙利活用研究株式会社

新聞記事掲載のお知らせ

宇宙利活用研究株式会社の取り組みが、中日新聞に掲載されましたのでお知らせいたします。

・中日新聞 2024年(令和6年)3月28日(木曜日) 朝刊

宇宙産業に関心を持つ浜松市内の企業とつながりを持つと、北海道でロケット発射場の管理運営を行う会社の社長が市内の企業3社を訪問し、担当者らと情報交換した。宇宙産業の現状や将来性について説明し、各社の強みが新たな事業につながるを期待した。訪れたのはSPACECOTAN（スペースコタン、北海道大樹町）の小田切義憲社長(61)ら。同町には民間向けのロケット発射場「北海道スペースポート」があり、ロケットや衛星関連の事業誘致に力を入れている。今回の訪問はベンチャーの宇宙利活用研究（浜松市中央区）がコーディネートし、今月14、15の両日であった。

試験機器を製造するエヌエスティー（同）では、鈴木康之営業本部長(49)が自社製品の分野が新たな事業につながる可能性があるか

宇宙ビジネス参入 浜松の企業に期待

ロケット発射場運営会社

産業廃棄物処理業のエムエスケイ（同）では、橋本茂樹会長(72)がグループ会社の野菜粉末化の技術を紹介。小田切社長は賞味期限が2年と長い点に触れて宇宙食など「十分にいける可能性がある」とした。橋本会長は「宇宙食から宇宙ごみまで、いろいろなビジネスにつながることを期待している」と意欲を示した。小田切社長によると、宇宙産業は2040年に世界の市場規模が110兆円になる見込みなどと説明。自動車などものづくりに取り組む会社が多い点で浜松市には魅力があり、宇宙ビジネスへのチャレンジや協力を期待しているという。

（寺本康弘）

小田切義憲社長から説明を受ける鈴木康之営業本部長（左）＝浜松市中央区で

※この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

以上

【お問い合わせ先】

宇宙利活用研究株式会社 広報担当

email : info@spaceur.co.jp